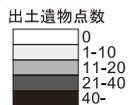
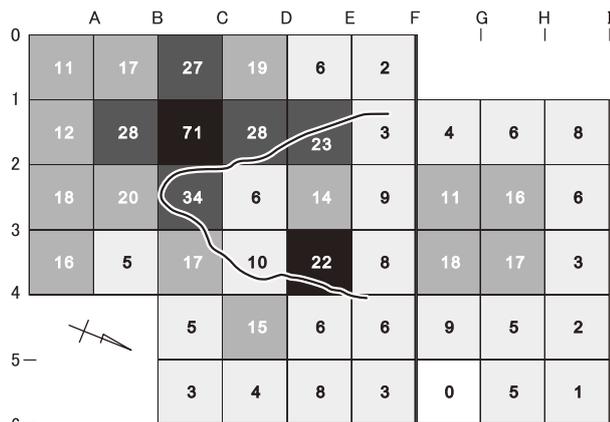


Table 3-1-4 グリッドごとの出土遺物の組成

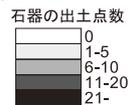
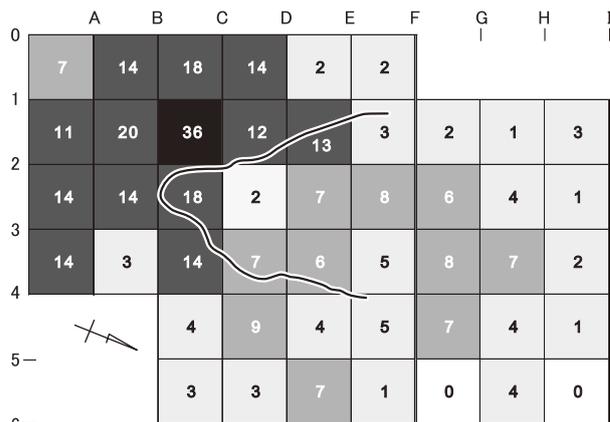
Table 3-1-4 Lithic composition of each excavated grid

グリッド	尖頭器	有茎尖頭器	石鏃	両面加工石器	半両面加工石器	細石刃核	細石刃	削片	舟底形石器	局部磨製石斧	搔器	削器	二次加工のある剥片	微細剥離痕のある剥片	縦長剥片	石核	磨石	石錘	敲石	穿孔のある礫	二次加工のある礫	原石	石器小計	土器片	炭化物	総計
A1	3			1	1	1	1																7	1	3	11
A2	2			2		1	1				2				2					1			11		1	12
A3	3			2			4	1			1	1	2										14	4		18
A4	8					1					2				1	1	1						14	2		16
B1	8			1			2				2				1								14	1	2	17
B2	12			1			2	1				1	1			1					1		20	5	3	28
B3	2						1	1			1	2	1		1	2					3		14	3	3	20
B4	1												1					1					3	2		5
C1	10						3						1		2	2							18	5	4	27
C2	13			2			6				2	2	2	3	1	4						1	36	6	29	71
C3	7			2			2	1				1	2	1	1	1							18	5	11	34
C4	8			1								4	1										14	1	2	17
C5				1									2			1							4		1	5
C6	2			1																			3			3
D/C1																										1
D1	5			2			1				2		1			2					1		14	3	2	19
D2	4	1		1			1				2	1			1	1							12	1	15	28
D3				1			1																2	3	1	6
D4	2			1								3	1										7	2	1	10
D5	4												1		1	2					1		9	1	5	15
D6	1										1		1										3		1	4
E1	2																						2	2	2	6
E2	5		1	2							1		1		2							1	13	1	9	23
E3	3			2												1					1		7	6	1	14
E4	3						2				1												6	2	14	22
E4/5										1													1			1
E5	1			1									1	1									4		2	6
E6	4											1		1	1								7	1		8
F1													1							1			2			2
F2	1					1					1												3			3
F3	3			2							2					1							8	1		9
F4	3													2									5	2	1	8
F5	2			1							2												5		1	6
F6	1																						1		2	3
G2											1		1										2		2	4
G3	2										2		1		1								6	2	3	11
G4	1							1	1		2		2	1									8	1	9	18
G5	6										1												7	2		9
G5/6																							1			1
H2								1															1	2	3	6
H3	2										1									1			4	2	10	16
H4	2											1	2	2									7		10	17
H5	2			1										1									4	1		5
H6	2										2												4	1		5
I2	1													1							1		3	4	1	8
I3								1															1	1	4	6
I4	1			1																			2	1		3
I5													1										1		1	2
I6																								1		1
計	142	1	1	29	1	4	27	7	1	1	29	19	25	15	12	22	1	1	2	1	8	2	351	80	159	590



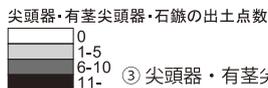
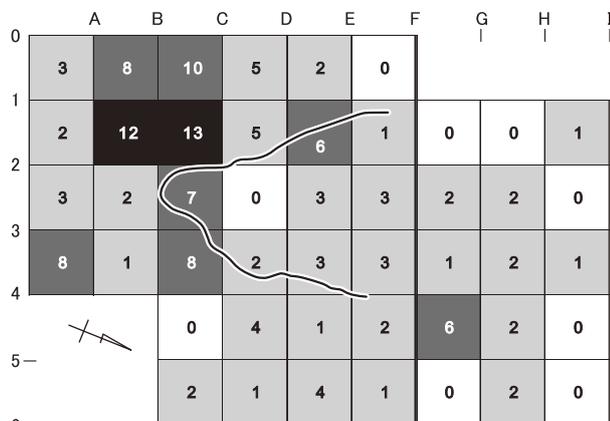
① 出土遺物の平面分布
Distribution of all artifacts

(出土位置情報を記録して取り上げた石器・土器・炭化物全てを含む)



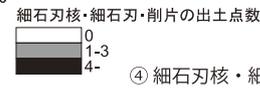
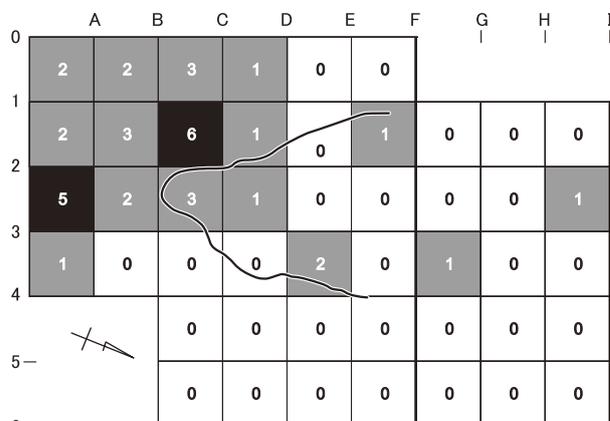
② 出土石器の平面分布
Distribution of all stone tools

(出土位置情報を記録して取り上げた石器全てを含む)



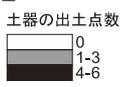
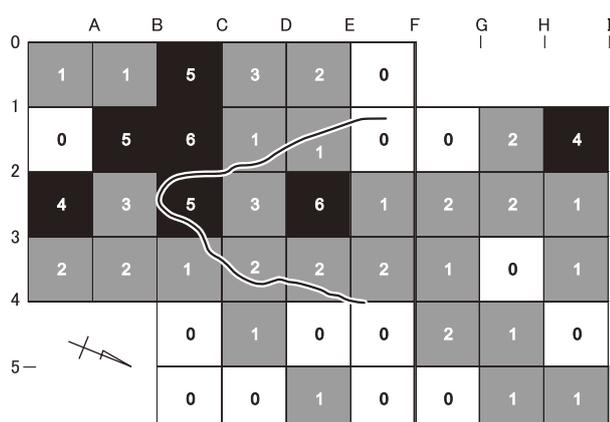
③ 尖頭器・有茎尖頭器・石鏃の平面分布
Distribution of hunting weaponry

(出土位置情報を記録して取り上げた尖頭器・有茎尖頭器・石鏃全点を含む)



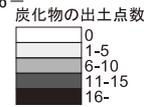
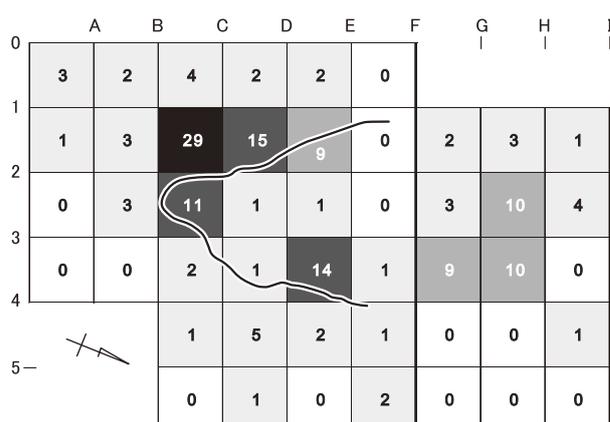
④ 細石刃核・細石刃・削片の別平面分布
Distribution of microblade core, micro blade, and spall

(出土位置情報を記録して取り上げた細石刃核・細石刃・削片全点を含む)



⑤ 土器の平面分布
Distribution of pottery

(出土位置情報を記録して取り上げた土器全点を含む)



⑥ 炭化物の別平面分布
Distribution of charcoal

(出土位置情報を記録して取り上げた炭化物全点を含む)



: 1号くぼみ地形の外形

※各グリッド内に表記された数字は出土点数を示す



Fig.3-6 グリッドごとの遺物出土状況

Fig.3-6 Artifact distribution in each excavated grid

出土点数は1層から1点, 2層から4点, 3層から81点(590点中に占める割合は13.7%), 4層から288点(48.8%), 5層から147点(24.9%)で, 1層, 2層からの出土は少ない。また, 4層からの出土が最も多く, 5層出土がそれに次ぐ, この傾向は石器において最も顕著で, 4層を中心に主に3層~5層にかけて出土している。出土石器の点数を器種ごとにみても, 概ね4層を中心に, 主に3層~5層にかけて出土する傾向は変わらない。なお, 土器と炭化物も4層出土が最も多く, 5層がそれに続く点では同じだが, 3層出土の点数(土器:15点, 炭化物23点)と, 5層出土の点数(土器:17点, 炭化物30点)との差は, 石器(3層:43点, 5層:100点)の場合に比べ顕著ではない。

Table 3-1-4とFig.3-6にグリッドごとの遺物出土点数をまとめて示す。遺物の分布の傾向を全種別の遺物出土状況を示すFig.3-6-①でみると, C-2グリッド(71点出土)を中心にその周辺に出土が集中していることが分かる。この傾向は, 石器(Fig.3-6-②), 土器(Fig.3-6-⑤), 炭化物(Fig.3-6-⑥)のいずれでも大きく変わらない。ただし, 石器の場合, C-2グリッドが出土の中心なのは変わらないが, 尖頭器・有茎尖頭器・石鏃など刺突具を含む可能性のある器種(Fig.3-6-③)と, 細石刃関連の器種(Fig.3-6-④)の分布を比べると, 尖頭器などは比較的調査区全体に広く分布しているのに対し, 細石刃関係の器種は調査区の北側にまとまる傾向がみられる。尖頭器などはE-2グリッドやG-5グリッドでも, やや出土が多い(Fig.3-6-③, それぞれ6ずつ点出土)。土器は, C-2グリッドを中心にその周辺に出土がまとまるが, E-3グリッドやI-2グリッドにもやや出土のまとまりがみられる(Fig.3-6-⑤)。炭化物はC-2グリッドを中心に, 隣接するD-2, C-3グリッドでややまとまって出土している。そのほかにE-5グリッドと, H-4グリッドおよび隣接するH-3グリッドとG-4グリッドでやや出土が多い(Fig.3-6-⑥)。1号くぼみ地形と遺物の分布状況の関係をみると, 1号くぼみ地形の北側に各遺物の出土が最もまとまるという大まかな傾向を認めることができる(Fig.3-6-①~⑥)。なお, 石器と土器の合計431点中67点(15.5%)が1号くぼみ地形内からの出土として記録されている。

(橋詰)

3-5-1 石器

今回の出土石器の内訳はTable 3-1-1の通りである。大まかに区分をおこなうと, まず両面加工の石器(両面加工尖頭器, 両面加工石器, 細石刃核の一部, 局部磨製石斧, 両面加工の搔器など)と, その製作過程で生じた剥片を用いて製作された石器(周辺加工尖頭器の一部, 搔器の一部, 削器や二次加工のある剥片と微細剥離痕のある剥片の一部など), そして細石刃関連の石器(細石刃核, 細石刃, 削片)を抽出可能である。両面加工の石器や, その製作過程で生じた剥片を素材に製作された剥片石器は, 暗灰色の堆積岩(頁岩や泥岩, それらの堆積岩が熱変成することによって生じたホルンフェルスなど)を中心とした緻密あるいは細粒な石質の石材を主に用いている(Table 3-1-3)。それらの石材に加えて本遺跡では, 玉髓や碧玉などの珪質な石材が用いられており, これらは遺跡近傍の河川で中~小形の円礫・亜円礫が現在でも採集可能である。これらの石材は細石刃や石核に比較的多く用いられている(Table 3-1-3)。さらにそのほかに, 多孔質安山岩や砂岩を用いた敲石や石錘, 磨石が少量出土している。

出土石器と1号くぼみ地形との関係では, Fig.3-7-1~Fig.3-7-10に図示した石器のうち15点(3, 9, 17, 18, 22, 27, 29, 31, 32, 34, 37, 39, 51, 61, 67)が1号くぼみ地形内からの出土として記録されている(今回図示しなかった石器も含めると, 351点中47点存在, 13.4%)。石器に関しては1号くぼみ地形に分布が偏る器種などは認められない。

なお, Fig.3-7-1~Fig.3-7-10の各石器の図には通し番号を付してある。そのため以下では, Fig.3-7-1の1,

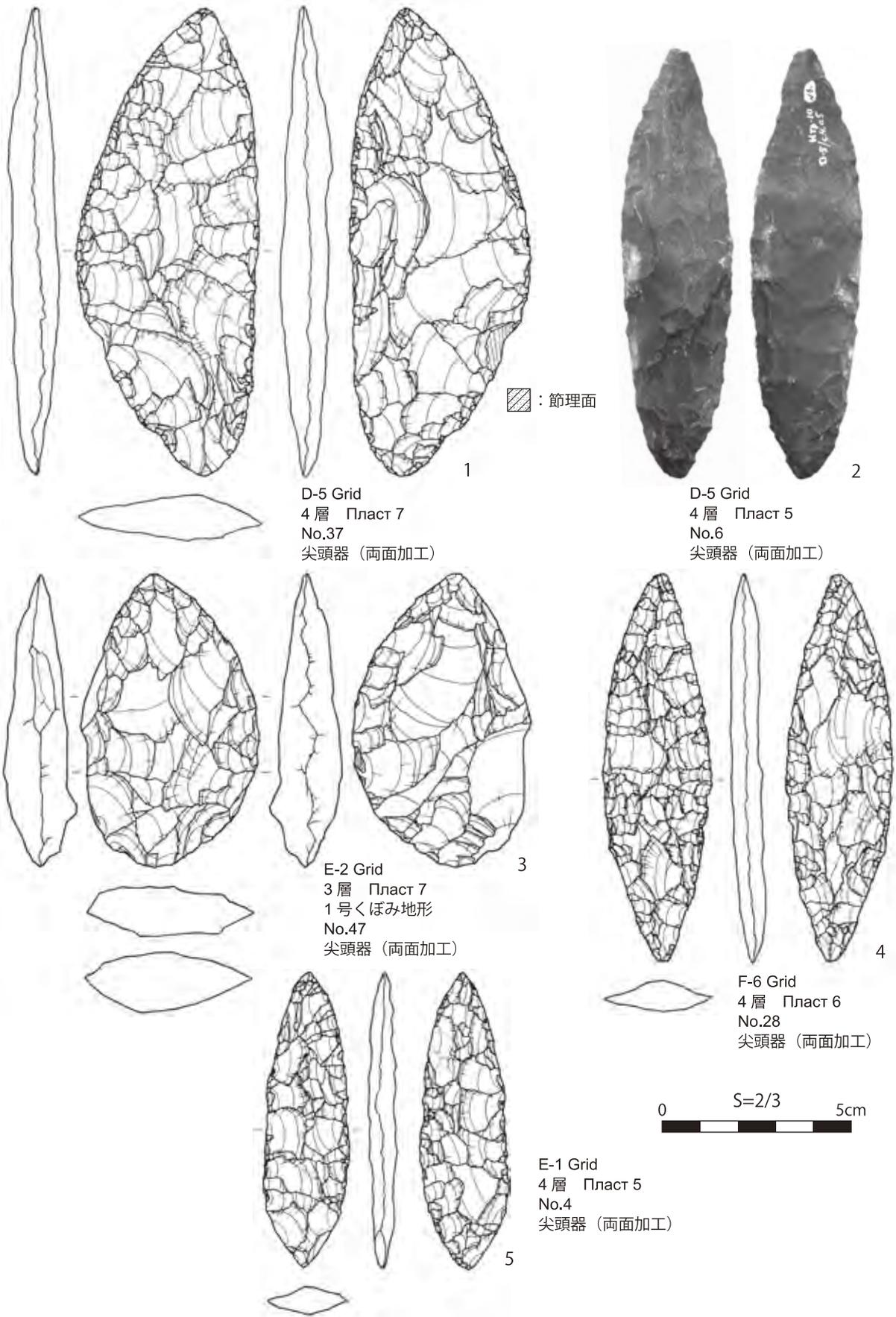


Fig.3-7-1 出土石器 (1)
 Fig.3-7-1 Stone tools (1)

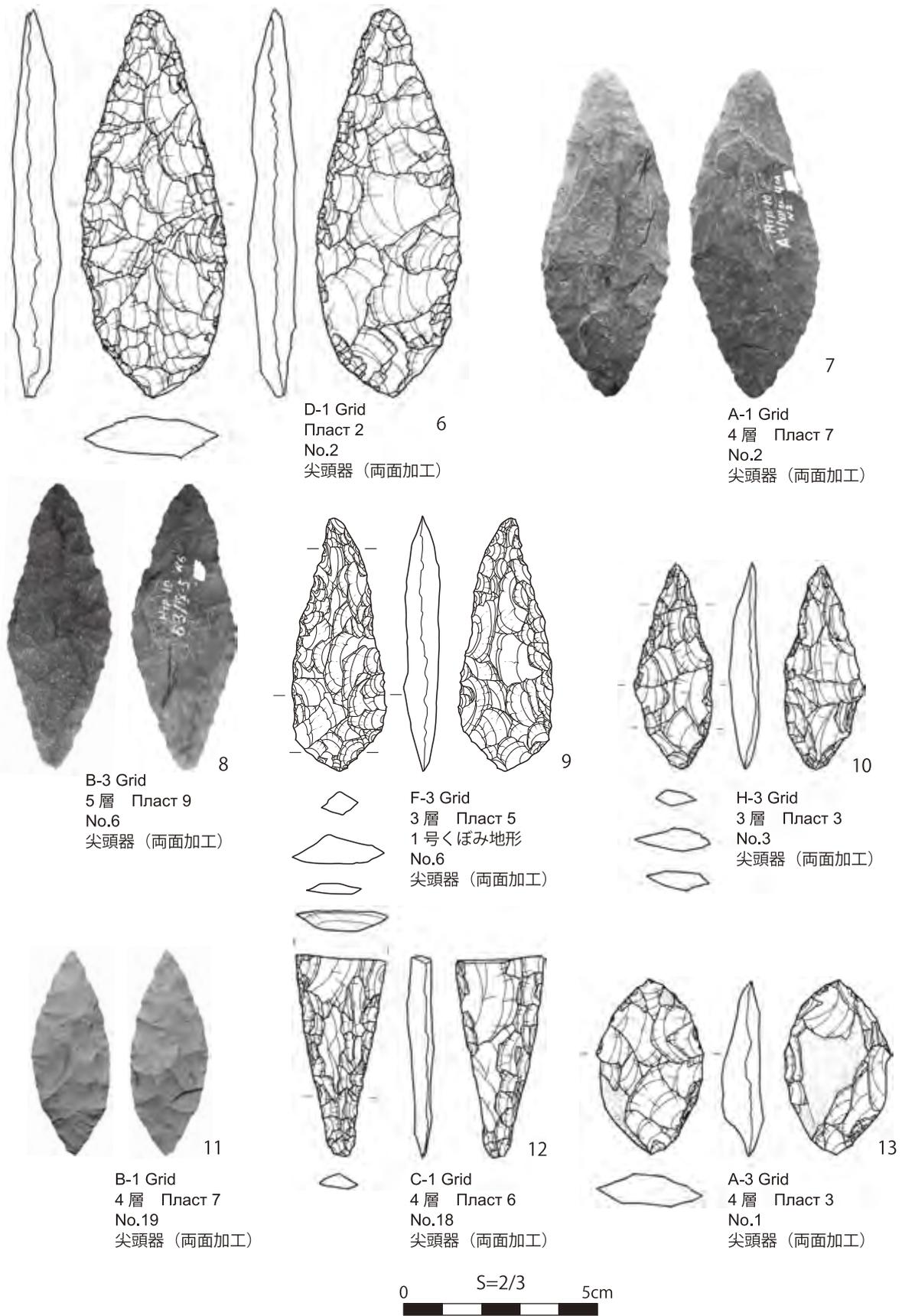


Fig.3-7-2 出土石器 (2)

Fig.3-7-2 Stone tools (2)

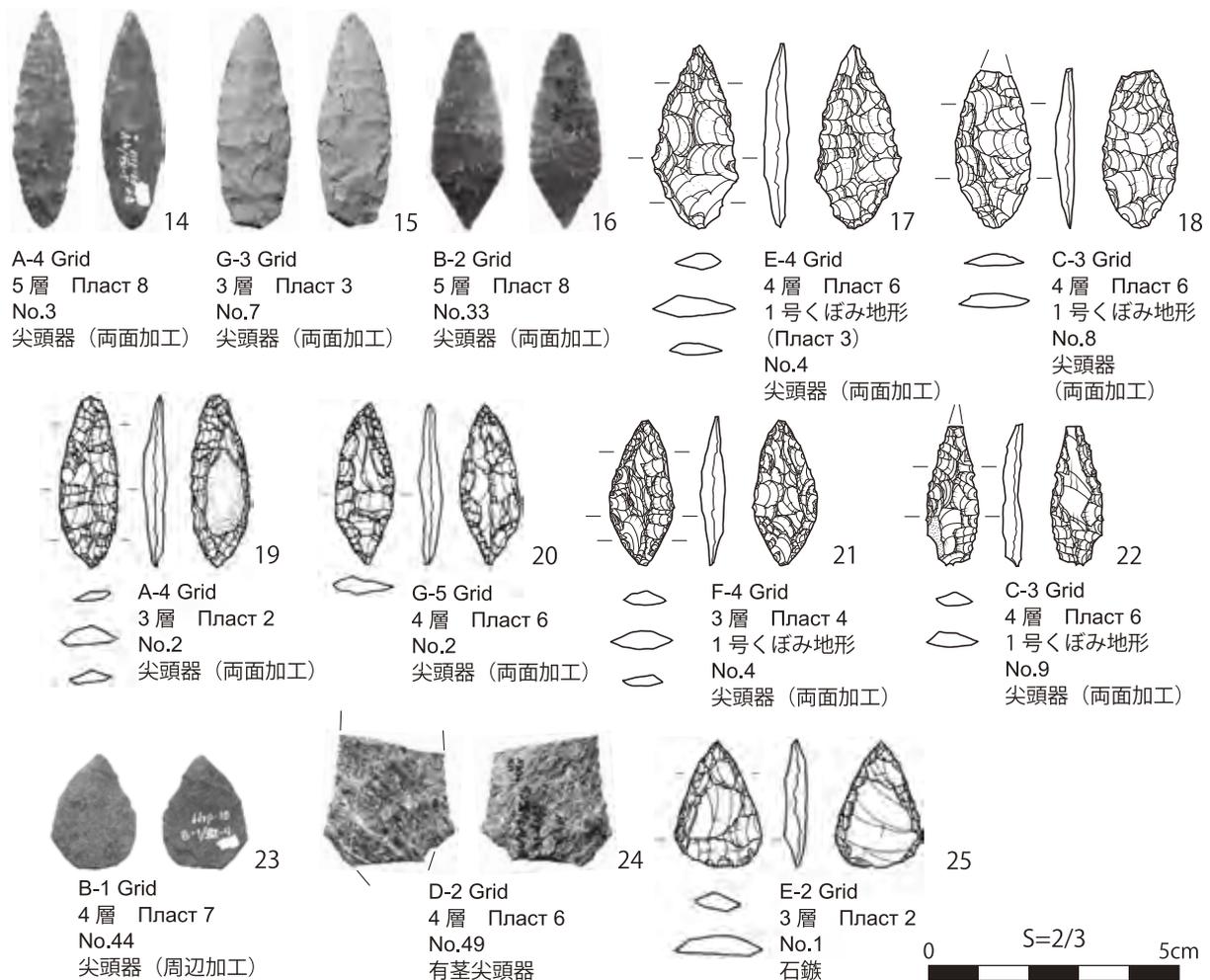


Fig.3-7-3 出土石器 (3)

Fig.3-7-3 Stone tools (3)

Fig.3-7-10 の 69 などといった個別の石器を説明する際には、Fig.3-7-1 といった図版番号は省略し、個々の石器実測図に付された通し番号 (1 ~ 69) によって説明をおこなう。さらに、以下でおこなう石器実測図の説明の際に用いる実測図と写真の各面の配置法と呼称は田中 (2004) に従う。基本的に左右に 3 面を配している場合は、左から正面、右側面、裏面を配置している。53, 55, 56 は正面の下に下面を配置している。実測図ではなく石器の表裏の写真に掲載している 2, 7, 8, 11, 14 ~ 16, 23, 24, 49, 50, 67, 69 は左側に正面、右側に裏面を配置している。また、31 は正面の左に左側面を配置している。35, 36, 38 は左から、左側面、正面、右側面を配置し、左側面の上に上面を配置している。37 は左から左側面、正面、右側面、裏面、正面の上に打面を配置している。40 ~ 45, 52, 64 は左から左側面、正面、右側面、裏面を配置している。46 は左から左側面、正面、右側面、裏面、左側面の上に上面を配置している。47 は左から左側面、正面、右側面、裏面、正面の下に断面と下面を配置している。54 は左から、左側面、正面、裏面を配置している。63 は左から、左側面、正面、右側面、裏面、正面の上に上面、下に下面を配置している。68 は正面とその下に断面を配置している。後述する各石器の記述の際の実測図および写真の各面の呼称は上記に従う。

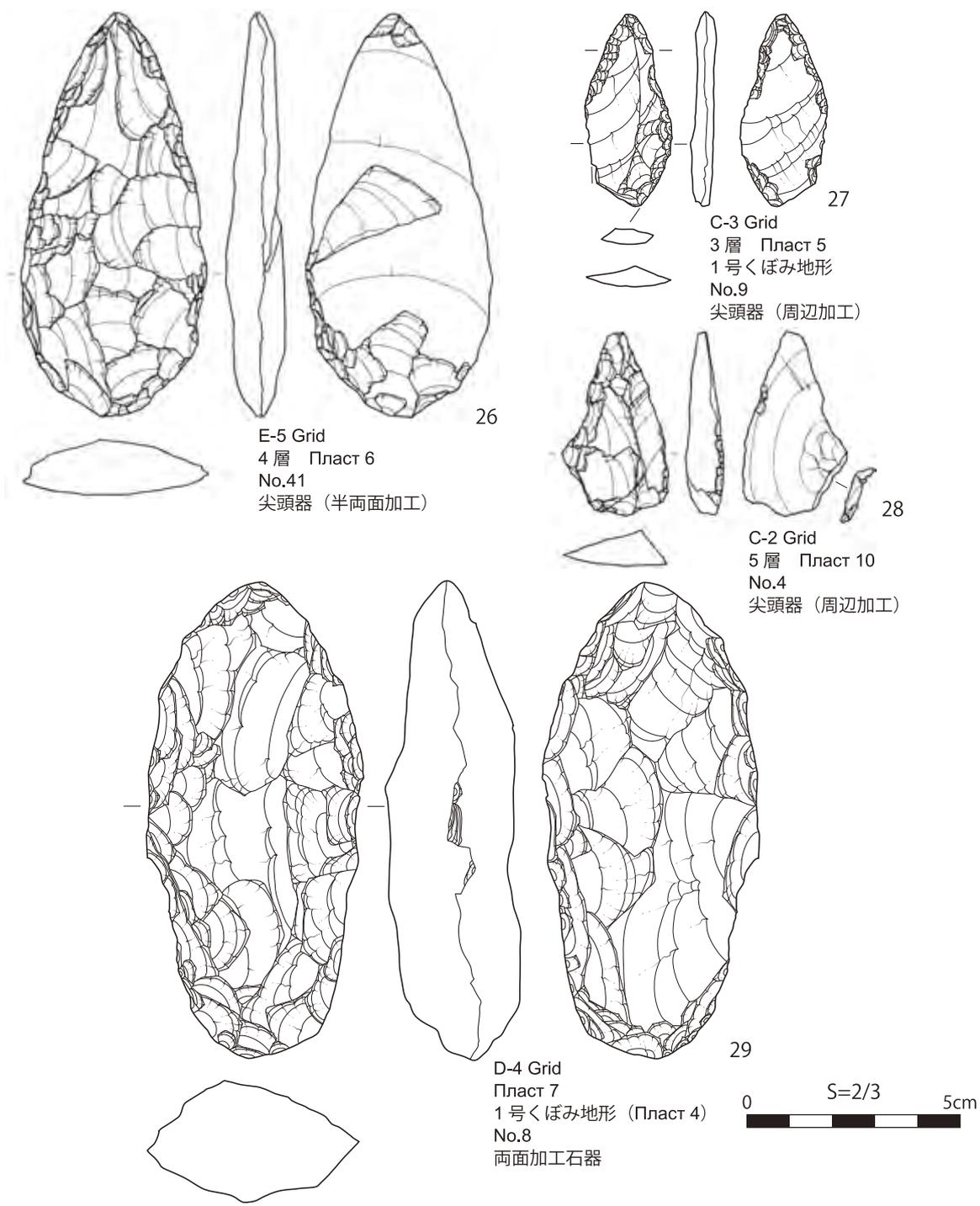


Fig.3-7-4 出土石器 (4)
Fig.3-7-4 Stone tools (4)

3-5-1-1 両面加工の石器

両面加工の石器には、1, 3の平面形が半月形で幅広の両面加工尖頭器、6, 7, 13のような木葉形の両面加工尖頭器、2, 4, 5, 8~12, 14~22のような幅が3 cm未滿の細身の両面加工尖頭器、24の有茎尖頭器、29~34のような両面加工石器などがある。35, 36の細石刃核も両面加工の母型を準備した上で製作されている。さらに、47の局部磨製石斧、48~50の搔器にも両面加工が施されている。以下ではこれらの事実記載をおこなう。なお、35, 36も両面加工の石器ではあるが、細石刃核であるので3-5-1-2でそのほかの細石刃関係の石器と共に事実記載をおこなう。

1は薄手で非常に丁寧に調整されており、半月形の平面形をした本遺跡で最も大形の尖頭器である。3も半月形の平面形だが1に比べ分厚い。裏面下方から長軸方向に側縁を取り込む剥離がなされているがいわゆる樋状剥離ではなく、通常の器面調整時に生じた剥離の失敗と考えられる。この剥離面は周辺および正面側からの剥離に切られており、失敗の修正がおこなわれていると判断できる。2, 4, 5は細手で比較的大形の両面加工尖頭器である。2はやや厚手で平面形が整っていないが、4と5は非常に丁寧に調整がおこなわれており、規則的に施された剥離には押圧剥離も使用されている可能性がある。5は使用されている石材も非常に良質である。6と7は比較的大きく木葉形の平面形で、丁寧な調整が施されている。8～13は中程度の大きさの両面加工尖頭器である。8は菱形の平面形、9と10は共にやや平面形が整っておらず、基部が三角形である。11は木葉形の平面形、12は上半を折れによって失っているが、細身の平面形である。13は木葉形で、素材の扁平な円礫の礫面を表裏に残している。完成形に近い形態の扁平な円礫が素材として選択されたと推定できる。14～22は小形の両面加工尖頭器で、薄く（厚さの平均は0.4 cm）、細身のものが多い（幅の平均は1.3 cm）。この数値は25の石鏃（幅1.7 cm、厚さ0.4 cm）と大きく変わらず、24の有茎尖頭器（幅2.6 cm、厚さ0.6 cm）よりさらにサイズが小さい。また、14～22, 24, 25はいずれも押圧剥離によって調整されていると推定できる点でも共通する。24の有茎尖頭器は上下を折れによって失っており、尖頭部と茎部の形態は不明だが、直線的な両側縁と基部の間に明確に角度が変換する箇所を確認でき、茎部が作出されていることが分かる。加えて、茎部の側縁には折れ面から0.3 cm程度の小さい彫器状剥離痕が発生している。本遺跡には、24のような明確な茎部ではないが、9, 10, 16, 17, 20のように基部が三角形になっているものも多い。25は半両面加工の円基無茎の石鏃である。本遺跡では尖頭器が142点出土しているが、そのうち両面加工が125点（142点中の88.0%）、周辺加工が8点（5.6%）、半両面加工が7点（4%）、片面加工が2点（1.4%）であり、ほとんどを両面加工尖頭器が占めている。出土点数に比例して両面加工尖頭器は最も平面形とサイズのヴァリエティが豊富である。1～7のような相対的に大形の両面加工尖頭器には半月形（1, 3）、木葉形（6, 7）、比較的細身のもの（2, 4, 5）が含まれ、比較的丁寧に調整がおこなわれている。8～13のような中程度の大きさのものには木葉形や細身のものが含まれ、大形、小形のものに比べ不整形な場合が多い。14～22のような小形の両面加工尖頭器には比較的細身のものが多い。これらの中には、浅く両側縁が並行した剥離が連続して規則的に施される例も多く、押圧剥離が調整に用いられていると推定できる。尖頭器にはこのほかに、26のような裏面に大きく素材剥片の腹面を残す半両面加工尖頭器（計7点出土）や、片面加工尖頭器（計2点出土）、23, 27, 28のような周辺加工尖頭器（計8点出土）も数は多くないが存在する。26は長さが9.5 cmで比較的大形の素材剥片を縦方向に使用した木葉形の平面形であり、表面の摩耗が顕著である。23は非常に小形の周辺加工尖頭器で、25の石鏃のサイズとほぼ変わらない。表面の摩耗が顕著である。27は素材剥片を縦位に使用した周辺加工尖頭器、28は素材剥片背面（実測図の正面）の周縁に二次加工が施されている。素材剥片を横位に用いた周辺加工尖頭器である。28は切子状の素材剥片の打面を持ち、素材剥片の背面が多方向から生じた剥離面によって構成されている。両面加工の石器製作時に生じた剥片（いわゆるポイントフレイク）が素材であったと推定できる。

尖頭器、有茎尖頭器、石鏃の石材は、1～4, 6, 18, 23, 27, 28は暗灰色で緻密な堆積岩、5は非常に良質なチャートもしくは珪質頁岩、7, 8, 12は無斑晶質安山岩、9には凝灰岩？が、10は緑灰色で緻密な堆積岩、11, 13, 17, 19は頁岩、15, 20, 25は珪質頁岩、16はチャート、21は灰白色で緻密な堆積岩、22は玉髓、24は流紋岩？が、26は暗灰色で粗粒な堆積岩が用いられている。使用される石材のヴァリエティは比較的豊富だが、尖頭器に用いられる石材は圧倒的に暗灰色の堆積岩が多い（Table 3-1-3）。両面加工尖